

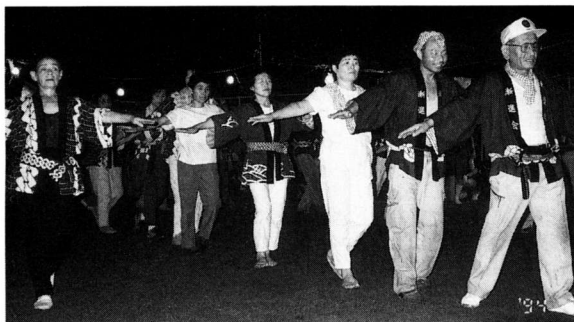
No. 29

1994

9月1日発行

萩の郷

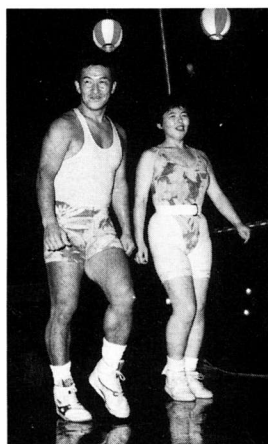
発行者
下市田区
発行責任者
下井武平
印刷
下市田・キタバヤシ印刷



第八回 萩の里祭 七月三十日



一、〇〇〇人が集って
盛大に実施
エアロビクス



フリーダム長野の皆さん



(会場のようす)



子供花火大会
参加者二七〇名



金魚すくい
真剣にとりくむ子供

真夏日、連続の猛暑であったが、十五分間の夕立雨に恵まれて暑気払いができ、踊りも後半にいく程盛り上がり、楽しい一夜を過ごすことができた。

++++プログラム++++

◎第一部 六時四十分から、

全員による納涼盆踊り大会

◎第二部 七時十分から、高

森首頭の各区発表会。

(夕立雨で十五分休憩)

◎第三部 八時十分から、子

供花火大会。

◎第四部 八時四十分から、

エアロビクス大会、指導は

フリーダム長野の皆さん。

◎第五部 九時十分から、全

員による納涼盆踊り大会。

◎各区の壮青年部 六時から

お楽しみコーナー開店。

公共下水道については、町の買収単価に対して、地権者組合から要望単価が示され、いよいよ大詰め段階に入りました。又座光寺地区の人達との話し合い説明会も数回行われ、伊那市等への視察も行われました。

又広域農道については、下市田・上市田・牛牧地区の地権者の同意が得られ、去る七月十四日に調印式が行われ、秋以降遺跡調査等着工の運びとなりました。

明神橋の架け替えについては、県道の法線が確定しこれに関連した取付道路等について去る八月四日に

水利委員の活動

北沢昭夫

水利委員の仕事は、用排水路等地区計画への取組みが主体となつて、活動しています。

下市田には、水不足による水利権と言うものがあつてこれを保持して来ていますが、今年の様な日照り続きにも、一貫水路のあるおかげで水争いも無く今日に至っている事は、幸いです。

又上市田・牛牧・下市田

区の情勢について

区長 下井武平

町へ陳情し、県への要望を、工が決まり、これに先行して遺跡調査が始まっています。

又同日河原組合でも、建設省の親水公園に伴つて設置される町の公園内へ、河原関係の水天宮・史蹟・記念碑等の復元又は移転等について町へ陳情しました。

一ノ号線の萩山神社前より下市田公民館北側迄の工事についても、地権者の協力が得られて着工されました。竜西線下市田保育園東側についても拡幅改良する事が決まりました。

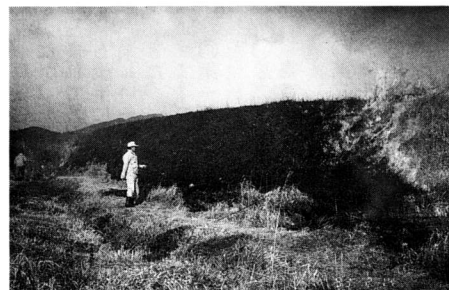
中段の土地改良については、漸く予算付けがあり着工がとうございました。

日赤奉仕団下市田分団の皆さんが、公民館の座布団カバーの洗濯をしてくださいました。奉仕団の皆さんありがとうございました。

七月以降の雨不足により、水田用水の不足地帯では堤の放水が行われ、四区上洞地区では町の揚水ポンプ及び、自衛消防の軽便による揚水も行なわれました。

牧ノ内堤については、用途更改が修理が慎重に検討しましたが、水系関係者の要望に応じて存続を決定、近く補修につき県より視察に来ることになりました。

七月以降の雨不足により、水田用水の不足地帯では堤の放水が行われ、四区上洞地区では町の揚水ポンプ及び、自衛消防の軽便による揚水も行なわれました。



土手焼き作業

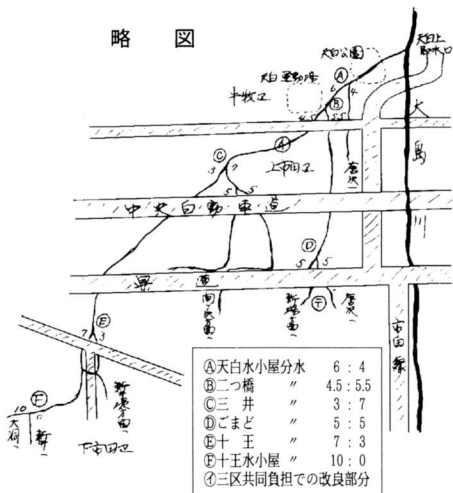
下市田区・上市田区・牛牧区内の各分水個所に於ける水利権について

標記三区は、水利権について従来の言い伝えを基本としながら、現時点での水利の状況を踏まえ、改めて各分水点での確認を行い、下記略図内に記す内容でこれを後々に伝えることとする。

尚、ここで特に定めない部分は現状の利用状況で適宜とする。(現地確認での踏査は各区の執行者及び各区水利担当者全員で行ない互いに了承されたものである。)

平成4年5月19日

下市田区長 下井武平
上市田区長 関川邦雄
牛牧区長 吉森宏人



平成5年度 下市田区一般会計決算報告書

(自平成5年4月1日～至平成6年3月31日)

収入合計 44,081,481円

支出合計 41,419,849円

差引残高 2,661,632円(内訳別紙)

【1.収入金の部】

項目	予算現額	決算収入額
1. 区費	15,214,100	15,487,452
2. 繰入金	7,819,708	7,819,708
3. 町支出金	6,645,553	7,458,167
4. 財産収入	1,270,302	1,265,332
5. 寄付金	1,514,345	1,514,345
6. 消防義務金	2,400,000	2,400,000
7. 諸収入金	2,709,095	2,789,607
8. 一時借入金	3,000,000	3,000,000
9. 前期繰越金	2,346,870	2,346,870
合計	42,919,973	44,081,481

【2.支出金の部】

(単位 円)

項目	予算現額	決算支出額
1. 総務費	13,382,231	13,270,071
2. 厚生費	756,264	763,364
3. 林務費	464,751	309,651
4. 土木費	10,300,000	9,131,671
5. 水利費	6,318,583	8,232,250
6. 消防費	3,720,597	3,697,030
7. 公民館費	2,980,000	2,980,000
8. 返済金及び利息	3,036,705	3,035,812
9. 予備費	1,960,842	0
合計	42,919,973	41,419,849

平成5年度 下市田公民館会計決算報告書

(自平成5年4月1日～至平成6年3月31日)

収入の部

科目	予算額	決算額
繰越金	96,397	96,397
繰入金	2,980,000	2,980,000
補助金	968,000	998,670
雑収入	1,000	999
合計	4,045,397	4,076,066

支出の部

(単位 円)

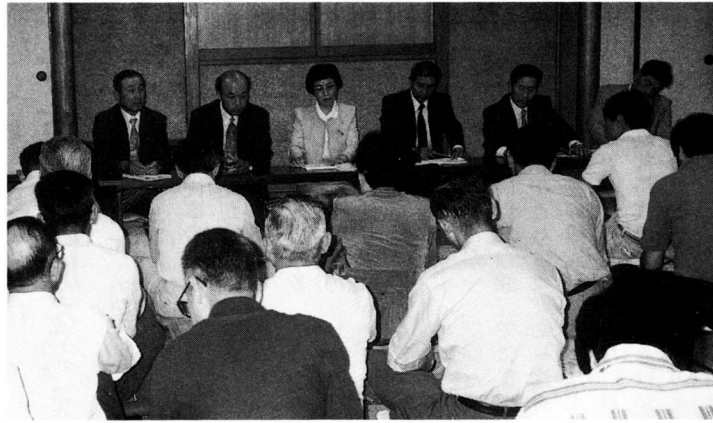
科目	予算現額	決算支出額
総務費	1,850,000	1,847,039
教養部費	1,184,000	1,137,249
体育部費	583,000	582,825
視聴覚部費	211,000	209,054
図書部費	187,397	184,134
予備費	3,000	30,000
合計	4,045,397	3,990,301

地元出身町議との懇談会報告

— 教養部 —

下市田区と公民館主催による「地元出身町議と区民との懇談会」は、去る六月十八日午後七時より、下市田公民館二階大会議室に於て行なわれました。

改選されてほぼ一年目の当日は、原昭夫、小宮山佳子、倉沢岩雄、伊奈川義公、久保田昌幸、熊谷元尋各議員の御出席を頂き、区より区三役、公民館三役、区民約百名が出席し、下市田公民館長、区長の挨拶のあと各議員より町議活動報告をしていただきました。

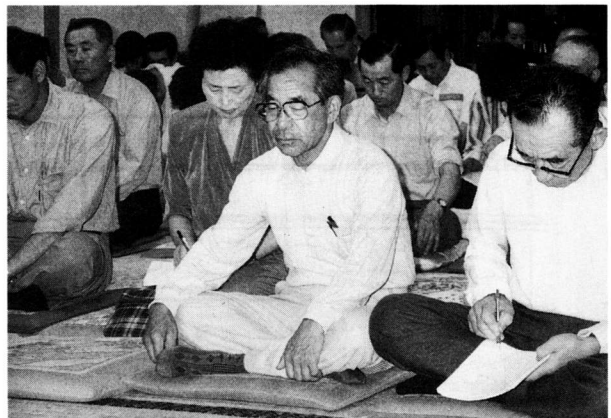


懇談会の様子

原建設委員より、下市田に關係する件として、広域農道二千メートル歩道付き、六月中に調印。下市田公民館を基点とし、南大島川まで七百万円の予算で三区間に分けて六メートルの幹線道路工事。ふるさと農道（四区五区にかけて）国道一五三号線から南大島川沿いに九メートル中の道路。一ノ号線は、萩山神社まで完成。九月までには公民館まで完成予定であるとの報告。又熊谷建設委

員より、飯田北部農免道路上郷から南大島川までの二五〇〇メートル、南大島川から水天宮までの一四五〇メートルについて、現在関係者との話し合いを進めている。明神橋の架け替えについて、対策委員会を設ける。親水公園は、六月入札三千二百万円の補助予算で秋口完成予定であると三点の報告。小宮山社会委員より、高齢化を迎え、よりきめ細かい取り組みをということで、ボランティア育成事業（三〇万円の予算）推進、やすらぎ荘改修（段差風呂場）、福祉バス更新。福祉サービス事業で、高齢者のための手引書配布、寝たきり介護者慰労金月一万円から一万五千円に。又在宅老人の短期保護に町より一日三九二〇円の補助等の報告。伊奈川社会委員より、環境下水道に関して、公共下水道関係、農業集落排水事業十億円予算で、吉田、上平が今年より着工。同時に水問題として、多目的保安林事業推進。環境美化では、垣外ゴミ処理場六月より搬入（十年間の計画）、回転式生ゴミ処理機（六万七千円）補助三万円、焼却炉補助一万円から一万五

千円に。又家庭用雑排水処理施設は、月一回の点検をと報告。倉沢産業委員より、農商工業について、町農業生産額五〇億円、専業農家二二一戸。商業年間売上一四一億円、一三八店、従業員五八七人。工業出荷高二四〇億円（内工業団地一〇〇億円）七九事業所、従業員一六五〇人。湯ヶ洞関係では、利用者九万三千人。一人平均利用高泊り七五〇〇円、日帰り四七〇〇円。又、御大の館は六億五千万円の予算で平成八年八月オープン予定。ライスセンター横予冷库建設について等報告。久保田総務委員より、教育施設関係として、資料館に修蔵庫を増築。土地利用計画、学校教育について、不登校の増加がみられ、不安がある。生徒指導として専任教師二名、又家庭地域ぐるみで考え、協力するようにしたい。と夫々報告がありました。引続いて行なわれた懇談



会の内容はおよそ次の通りでした。
Q 農免道路の件では、後継者の意見も聞く機会を設けてもらい、又、産業道路としても見る等環境も考えよく検討してほしい。
A 環境、整備との三点セットで考えたいが、交差点、クランクの設置場所など問題もあり、最終的には、関係者の意見を聞いていきたい。
Q 旧下市田学校について毎年少しずつ修理して、数回しか利用していないが、残すのなら三五日利用でききるものにしてはどうか。

A 要望として出しておく。
Q ふる里農道で、事故が多いが、信号機をつけてほしい。
A 上の道が広くなければ信号機はできないが、改良していきたい。
Q 三槽浄化槽の汲み取りを業者に頼んでも、二、三軒まとめてほしいと言われる。費用は個人負担でも町で管理してもらえないか。
A 一回の汲み取り料は、一二〇〇円〜一五〇〇円で予算計上はしてあるが、人が集まらないと機械も動かないので検討してみる。
Q 山吹公園のモニューメントは、自然の中では不釣り合いで、芸術性のあるものとは思われない。
A 芸術性については、個人差がある事だが、公園整備としては未完成であり、今年は人物以外のものをと考えている。
Q 農家の後継者がいない、お嫁さんが来ないという切実な問題があるが、現状を結婚相談員の方から、報告してほしい。
A 真剣に取り組んでいる問題だが、昨年は三組のカップルが成立したが、今年は、五組を目標にして取り組んでいきたい。

下市田河原を考える

上 沼 豊 実 (一区)

全国的に農業従事者の高齢化と後継者不足が今深刻化しております。高森とて例外ではなく、後継者の多くは農業以外に職を持ち、家業は父母、妻に任せ主にサラリーマンとして働いておりますが、下市田河原に関わる公共工事の施行が一段と具体化し、耕作地の減少、環境の問題がとりざたされ、また農産物の輸入自由化、米問題等々、農業を取り巻く複雑な時代の中で後継者も将来の選択を迫られる時代が来しました。

昨年の米騒動、今年の水不足による状況で農業の重要性が再認識されたように思います。後継者が農業を継ぐ手だてとはなり得ない現状があります。それは、社会が取り巻く農業環境や生活手段としての農業があまりにも他業種と違いすぎ、若手を引き付ける魅力にかけるといった事もあり、従来の農政や農法も手詰まりとなってきたように思います。「農業を守れ」とか

した。農地を提供し、一直線の危険極まりない道路をあけてしまつて本当に将来農業が出来るでしょうか。通りすがりの便利さのために何億もの金と農地を犠牲にするこの意味を今一度考えたいと思います。

一度考えたかと思つて、農民に利があつて本当の農免道路であり今の状況からは産業道路と認識しなければなりません。

汚水処理施設、下水道が完備されれば当然今までの水が必要になります。道路、河川の整備が充実した反面土地の補水性が低下してしまい、清水の涸れや溜池の水量低下、あちこちの道路整備事業による農地の宅地化などを考えると水の重要性がますます考えさせられます。今、全国的にこのような施設が建設されています。人々が快適に生活することは当たり前の願望でありそれが出来る時代です。しかし快適になることによって失われるいくものがあることも認識しなければなりません。農業はもとより、

自然との関わり方も考えていかなければならないと思います。

最後に親水公園についてこれは町のハーモニック塾内の一部有志により提案さ

れたもので、「カヌーの町高森」が全国的に知れつつある現在、カヌーを通じて多くの人々との交流による町の産業、文化の発展を目指すカヌー競技及び文化活動

の出来る親水公園を下市田河原に造りたいというものです。我々としても農業の発展とどう関われるものなのか、そういった視点で考えてみたいと思っております。

以上、下市田河原の諸問題を単に行政スケジュールに則った事業に終わらせろではなく、関われる限り参加させてもらい意見や要望が町の政策に反映出来るような会に発展出来ればと思っております。

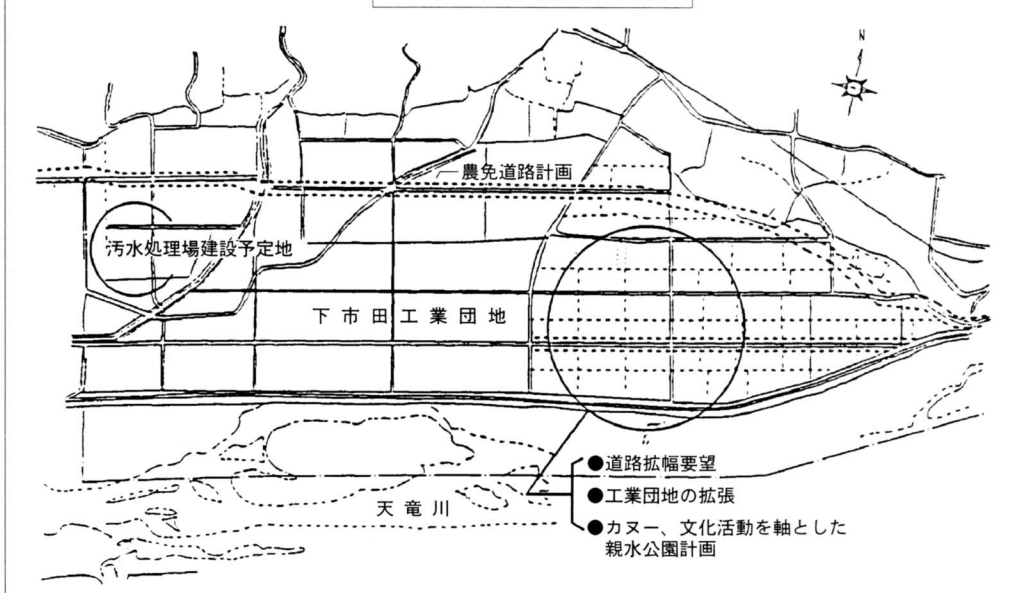
萩山神社

宝刀について

区長 下井武平

平成五年三月、小川光男氏外四名より、「宝刀に関する調査陳情書」が区長、氏子総代長宛に提出され、区の機関決定に依り「宝刀審査特別委員」六名を委嘱、同年八月委員会が発足、事情調査の過程に於て、西沢弁護士に再三相談した結果、当時「昭和四十九年」の宝刀預り人に対し「公開質問状」にて真実を説明する事に成りました。よって区民の皆様にお知らせいたします。

下市田河原現状略地図



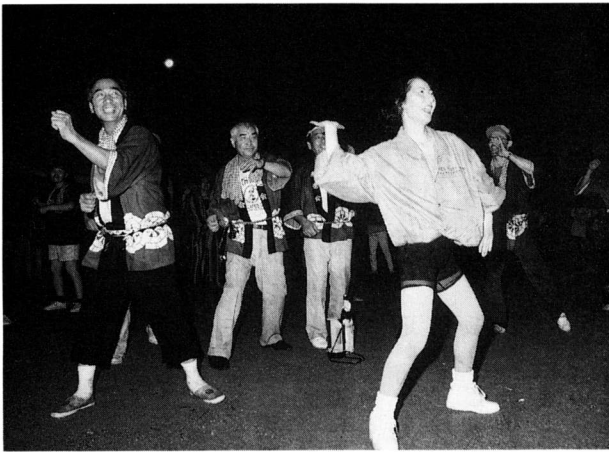
萩の里まつりⅡ状況と反省

教養部

毎年恒例となった萩の里祭り。当日の準備も猛暑の中、手慣れたもので順調に開催を迎えることが出来た。進行、企画も昨年とほぼ同じであったが、昨年の反省でマンネリ化の意見もあり、今年は部落対抗の歌合戦を止め、新企画としてエアロビクスのステージショーを実施、計画の段階では、賛否両論あったが、祭りの最中の突然の大雨で、しっ

かり湿りきった会場を再度盛り上げるそのエアロビクスの面々に、実行委員は感謝の気持ちであった。子供の花火大会はその雨で時間短縮せざるを得ない結果で残念であったが、その他の進行は計画通り実施することが出来、お楽しみコーナーは、そのほとんどが完売状態であった。後の反省会では、多種多様の意見があったものの、

一番の反省とするなら、ここひとつ盛り上がり欠けるものとして、萩の里祭りに携わった実行委員とその家族が参加者であり、一般参加の少なさが、今後の課題と言えるでしょう。とにかく萩の里祭りは、年間を通じ、区の一大イベントであるがゆえに、それぞれの役職の方々に片寄ることなく区民総出でのお祭りに参加する雰囲気高めに行くことが出来れば、またひと味違う盛り上がりがある、イベントになるのではないだろうか。



下市田区スポーツ大会

Ⅱ 体育部

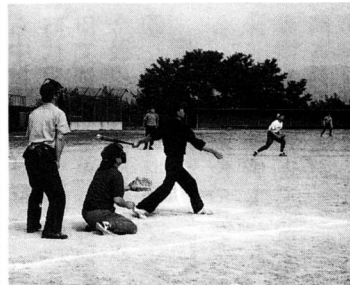
去る、六月十二日の日曜日に、平成六年度下市田区スポーツ大会が、町民体育館と町民グラウンドを会場に行なわれました。

今年度は、今までのグラウンドゴルフに代わり、スローピッチソフトボールが、ソフトミニバレーボールと共に行なわれました。

スローピッチソフトボールは、選手は十人で、ピッチャーは、バッターに対して山なりのゆっくりしたボールを投げ、盗塁はできず従来のソフトボールと多少異なりますが、新しいスポーツとしてとり入れられました。各区とも一球一球に歓声と笑いを交えた応援合戦が繰り広げられました。またソフトミニバレーボールは、年々技術の向上が見られ、手に汗にぎるプレーが、あちこちのコートで見られました。色々と反省点もあると思いますが、楽しい一日を汗と笑いで過ごす事ができ、良かったと思っています。



ソフトミニバレーボール



ソスローピッチソフトボール

スローピッチ

ソフトボールに

参加して

M・M

地域の活性化と健康を目的とした公民館スポーツに今年からスローピッチソフトボール大会が加わり、六月(下市田)、七月(町)の大会が行なわれた。猛暑にもかかわらず、初回とは思えない程の盛り上がりを見せ、運営に当たられた皆様の尽力が伺われた。スローピッチは、老若男女問わず楽しめるスポーツであり、今後、公民館スポーツとして末長く定着して欲しいと思う大会であった。

ソフトミニ

バレーボールに

参加して

井口民子

下一ソフトミニバレーボール同好会に参加して、三年余りになると思います。

◎結果は次の通りです。

・スローピッチソフトボール

一位 一区 二位 二区

三位 五区 四位 三区

五位 六区 六位 四区

・ソフトミニバレーボール

一位 一区 二位 五区

三位 二区 四位 六区

五位 三区 六位 四区

五位 三区 六位 四区

毎週金曜日に南小体育館で、わきあいあいと練習に励んでいます。区や町の大会に参加して、年を追うごとに、よい成績を収め今年も町の大会も、優勝することができ、とてもうれしく思っています。これからも、楽しく練習していきます。

四区ふれあい広場

四区 林 守 夫

去る四月十日四区では、社協と協賛で、第四回「ふれあい広場」を開催しました。近年にない、厳しかった冬を忘れるかのような、好天に恵まれ出席者も多く、各クラブ、各常会、子供会等なかなかの趣向を凝らした出し物で大盛況でした。プログラムを少し紹介しますと、常会長さんを始め各

地域の紹介

役員の方々が、午前中から段取り、舞台作りを行ない、午後二時から町長さん、区長さんの挨拶の後、プログラムに沿って、第一部、第二部と進行する中、各常会の出し物では、手が揃えば足が揃わず足が揃えば手が揃わず、揃わぬ所は、腰の振りでごまかす、芸達者もあり、会場から大喝采を浴びていました。又、とび入り歓迎のコーナーでは、日頃滅多に見られない、出し物が数多く、趣向を凝らし演じられ大好評でした。下市田で一番少ない人口の四区ですが、「ふれあい広場」

六区はこんなところ

六区 林 堯

六区は出砂原地区のことです、大島川をはさんで吉田地区に面している。戸数百九十、十一常会(隣組二十三)の集落です。町の玄関口として、市田駅があり、朝夕乗り降りをする利用も多いです。憩いの場所は、公園運動

広場、お祭り広場などがありカヌー港もあります。商店街の町、青物夕市があり利用者でにぎやかです。地区館を中心に、コミュニティ活動集会が盛んに行なわれています。行事は、二月卓球大会、五月グランドゴルフ、八月



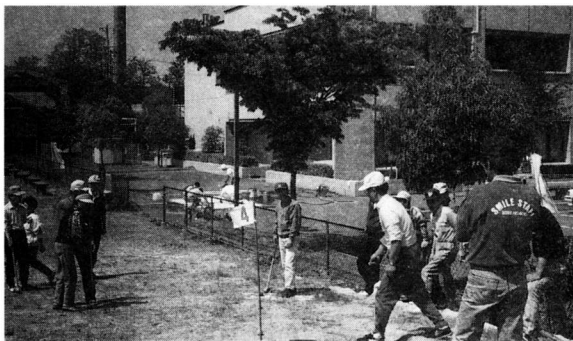
四区ふれあい広場

には、老若男女合わせて四区全体の三分の二の参加者には、老若男女合わせて四区全体の三分の二の参加者

は、大行事で納涼祭、盆踊り大会、灯籠流し、納涼花火大会、クラブなどが行なわれています。

五月は、運動広場を利用して、老人から子供までが広場に集まりグランドゴルフをやったり、皆が参加盛大のうちに終わりました。

下六の人達は、人情深くまとまりがあり、行事など協力し合い生活がしやすいところですよ。



グランドゴルフの一幕

トピックス

① 萩山神社宝刀の行方

区報前号で提言されているが、由々しい事件である。関係者の良識に訴えたい。

② 公共下水道終末処理場の地権者の協力と関係者の努力により、具体的に話合いが進められている。

③ 親水公園整備着々と進む

天竜川自然環境護岸の一部が完成し、堤防内にあずま屋、トイレ等が建設されという。

④ 道寿遺跡の発掘

三、四、五区中段の土地整備事業該当の古瀬地籍から中世末建物跡群と、奈良時代の古瓦が大量出土、飯伊では極めて重要な遺構で、今後の追究に期待したい。

⑤ 下市田河原を考える会

若手農業後継者が昨年から、下市田河原の農業の将来について研究している。素晴らしいことで成果が期待されている。

⑥ 広域農道に着工へ

下市田地籍は、七月調印が行なわれ、具体的に進んでいる。(南信州フルーツラインと命名)

⑦ 松岡城趾公園の整備

新井地籍の公園進入路も

⑧ 備装が終れば完了する。⑧ 惣兵衛堤防に関わる遺蹟の再建と保護について、区として関係方面に陳情。三六年災害で流没した水天宮が今回の河床工事で見えたので、公園整備の一環として実現するように次のことを、町や県へ陳情。

・水天宮の再建
・惣兵衛供養塔及び築堤記念碑の移転(二区へ)
・亀甲石の移転

・史跡大川除提の碑の新設
⑨ 店舗進出計画
・農協スタンドの北側へ予定されるという。

⑩ 夏祭り各地区盛會に
・七月十六日・納涼祭
一区 中央公園で、七時半
二区 会館で、六時

いずれも、民謡他の演芸と青年層による売店で盛りあがった。

六区 納涼祭ー七月十六日
お祭り広場で盆踊り他

⑪ 厚生連病院周辺の施設充実について関心高まる

⑫ 八月十五日成人式 下市田の新成人 七十八名

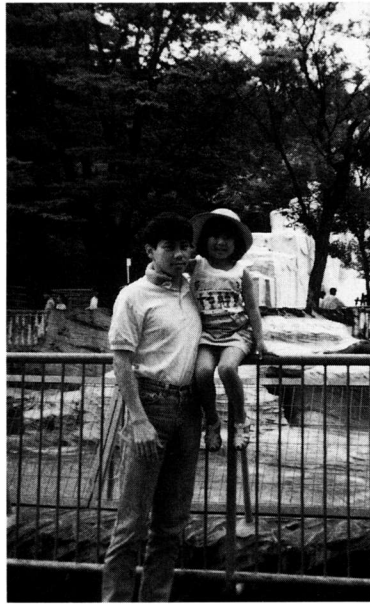
⑬ 広島平和バス派遣団、下市田から十一名参加

⑭ 盆野球大会(町G会場)一位一區、二位一六區

⑮ 日影井工事一箇の棲む川に。自然石の井水にと陳情。(文責 北島)

下市田四区 原 俊 秀

四区はまだまだ宅地化も進んでおらず、自然と、田んぼ、畑等の農地が沢山あり、静かで、東に南アルプス、西に風越山、南



私達は下市田に越して来て、八年目になります。その間人数が一人増え、一回の引越しをしまして、現在四区、上洞常会のお仲間になっています。

に天竜川の流れる様と、竜東の段丘を眺める、住環境のとても整ったところだと思えます。また、冬は暖かく雪も少なく、夏の暑さもしのぎやすいことや、大島の不動滝付近の沢から取

入れているらしい、水道水のおいしいこと（夏は若干ぬるくなる）も大変気に入っています。

最近、四区では、送電線の建設や、道路の拡幅の計画が話されていますが、これらは住環境に与える影響があまりにも大きいと思われ、入っています。

幼い頃、飯田駅より下市田まで祖母に連れられて親戚へ行くための、ほんの小さな旅と記憶していたのが私の高森町への第一歩でした。子育て、仕事と忙しく過ごしている折ふと縁あってこの地に家を建てることになり、陽当りも良く、周囲は広々と、豊富な緑に囲

まれてと、心はずませでのスタートでしたが、水道はまだなく、生活がはじまる



下市田三區 三ツ石 淑子

とゴミの処理で困り、日常の中での不便さを感じ、地域活動への参加も数多く次第にいろんな負担を感じる様になりました。しかし二年になろうとしている今、地域性にも慣れ、不便さもそれなりに日常の生活として暮らしております。高森町の知識もまだ少ない私ですが地域活動等を通して、ゆっくり、じっくり知る事が出来ればと考えています。朝カーテンをあけると、田んぼ、畑、果樹園が目の中にとび込んでくるのがとても気に入っています。

ようこそ下市田へ



下市田へ越して来て、早や七年もすぎ、当時小六と小三だった子供達もそれぞれ成長いたしました。七年もたちますと、越して来たときの感動もつれ、すっかり下市田にとけこませて頂きましたが、当時一番感じたことは、回りの景色でした。伊那谷の夕焼けは日本一と聞いたことがありますが、四季折々に変わ

る風景は何ものにもかえられません。最近、家の回りには家がギッシリ立ち並び、まるで都会の団地の様になってしまいました。自分の勝手ですが、これ以上田舎の景色を壊されないことを祈ってやみません。

果物の豊富なことも喜ばしいことでした。四コ×コ×コのパックのりんごを買っていた一家にとっては、一寸質を落とせば山のように食べられることは格別のものでした。近ごろは後継者の

不足で果樹園も大変と聞いていますが、いつまでもおいしい果物が食べられます様に。

下市田四区 平沢 一 秀

私共は飯田市内に永年住んで居ましたが、区画整理の為、移転する事になり、あちこち見て回りました。右も左も知らぬ人ばかり、「はて、さて、どうなる事やら。」と心細く悲しくなりました。ところが引越して来て見ると、お組合はもとより、近所の皆様が、何



随想



母

一区 原 秀 樹

「お年寄りには家の宝」という言葉を聞いて久しくなる。この言葉は家内も一緒に聞いていたので、姑嫁戦争も無く御蔭様に思う。

核家族化の現在、親と共に暮らす事が出来るのは、長男の私の特権でもある。

「わしゃあ未だ若いんだでナ」と折り紙に精出す母も孫の嫉になると「ちゃんと教えにゃあ恥ずかしいに」

と、オバアチャン風を吹かす。他にも、物を大切にすること、又インスタント食品でなく煮物料理も大切なこと等々。母は我家の宝なのである。

母は以前、われもこうとか水引などの野草を採って来ては花瓶に飾っていた。それだけに大概の野草の名は知っており、私も何時しか山野草が好きになった。



此の何年かは、休日ともなると運動を兼ねて二時間ほど緑豊かな道を歩く。道端には母から教わった山野草が沢山あり、歩く事が楽しくて仕方がない。豊かな緑に加えて虫の音と鳥の声、花や木々の匂い、緑の溶け込んだ空気、爽やかな風。これこそ我が町の宝だと思ふ。お年寄りとの自然は金銭で計れない大切な宝である。

移り変わる環境

三区 井 駒 二二人

先頃中国北京市郊外で、人民公社の水田を視察した時、この地方でもかつては常識だった、水田の畦に懐かしい大豆がまかれていた。大豆と言えば小学生時代の戦時中、国の食料増産の掛け声により、先生の指導で、今の南小学校の校庭のまん中に、細い通学路を残し、石ころだらけの校庭を耕し、大豆、南瓜等を作ったこと、又誰かに指導されたか、自主的だったか記憶に無いが、

突然の原稿依頼に、戸惑っている内に、しめ切り日になってしまいましたので、日頃感じている事を、書く事にします。

市田港から、舟下りが消えて、数年以上過ぎたかと思いますが、その後「カヌー」の町整備と、今年のある。

其の当時通学や、麦踏み、勤労奉仕は、部落毎に上級生が、下級生をまとめて行なっていた。この上級生の掛け声で今の様に自動車など通らない村道の少しでも広い道端や、道路に接した空地が少しでも有ればここに



日頃思ふ事

六区 岡 本 紀 代

夏は、親水公園にと工事が進んで、十年前の河川敷とはみちがえるばかりです。ところが、最近ゴミが多く目につく様になり、気になっていきます。

ゴミといっても、夏の風物詩「花火」から、ジュース、ビール缶、タバコの空き袋等、ほとんどが大人の楽しんだ遺物です。

自然に接する機会が多くなる事は望ましい事と思いつつ、

大豆をまいた事を思い出した。時移り歴史はくり返すと言うが最近各地で住み良い環境作りが叫ばれ、

当町でも、花一杯運動が数年前より行なわれ各クラブで、団体でと、大人が道端や空地に、季節季節の花作りに汗を流し、道行く人々の目を楽しませてくれる。世の中誠に平和で、豊かだと、つくづく思いこれが当然と思ふ事なく、時々は過去を、又広く目を周囲に向けるべきかなと、国道沿いの「むくげ」の並木を見ながら考えたのもうーん、歳かな。

ですが、それなりのマナーを心がけてほしいと感じます。

今日通りましたら、どなたが片付けてくださったのか、花火、空缶等、それぞれの袋につめられて整備されていきました。

「誰かが、片付けるからこのままで良い」とか、「楽しければいいじゃん」と言う前に、自分で出したゴミは自分で持ち帰る。これが一番のマナーだと思います。

自然の中で、楽しむ権利があれば、後片づけをすると言う義務もある事を、大人も心して、子供から孫へと、習慣づけて行く事が、真に、自然に親しむと言う事ではないでしょうか。

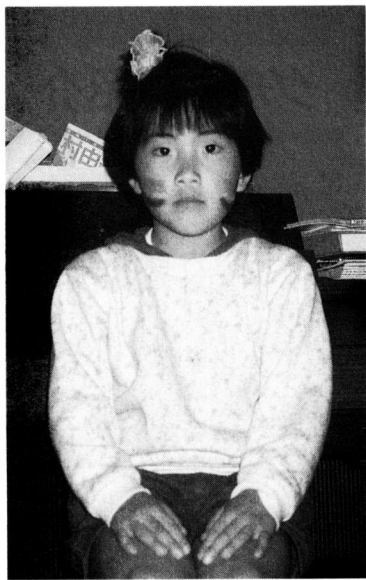
盆踊りも過ぎ、夏の暑さが恋しくなる頃、あの河原に、赤トンボが来るでしょう。トンボの姿を、子供達と一緒に楽しみたいと思っています。



小中学生の作文

はんごうすいさん

小二田 仲利 奈(二区)



田仲利奈ちゃん

きょう、下市田二くのは
んごう水さんが、ありまし
た。午後四時に、天りゅう
川の川らに、みんなあつま
りました。はんごうにわか
れてやさいをきりました。
利奈は六ばんでいずみちゃ
ん、みほちゃん、かおりち
ゃん、しょうくん、ひできく
んと、いっしょでした。女
子がやさいをきって、男子
はおじさんたちといっしょ
にはんごうで、ごはんをた
きました。やさいは、大き
な一つのなべに入れてカレ
ー

をつくりました。カレーも
ごはんもトマトもキュウリ
もおいしかったです。おか
わりをしました。七時三十
分から、花火をしました。
花火はどれもきれいでした。
そのあと、どきょうだめし
をしました。天りゅう川か
ら下二会かんまで歩いてい
たら、さかのところで、お
ばさんがとげんタオルを
ほうりなげたので、ほんと
うにびっくりしました。
楽しいはんごう水さんで
した。またやりたいです。

僕の家族

中二 鈴木 将 夫(五区)

僕の家族は、祖父、祖母
父、母、姉、兄、僕の七人
家族です。祖父と祖母は田
や畑などで働いています。
今年も六月に家族全員で田
植えをしました。父と母は、
共働きをしています。父は、
スーパーの本部にある流通
センターで荷物を輸送する

ための、トラックに積んだ
りする仕事をしています。
母は、スーパーでパートと
してレジなどを働いてい
います。姉は、スズケンと
言う医療関係の仕事をして
います。兄は、高校一年で
バスケットボール部で夏休
みにも学校へ行く時が多

楽しかった

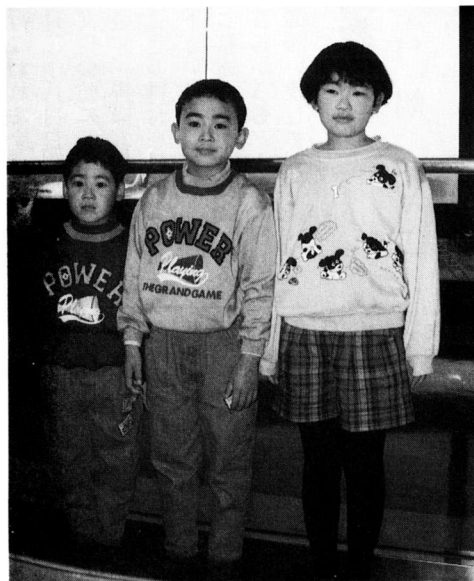
二はく三日のキャンプ

小五 池 田 智 奈(四区)

今年の夏休みに、「しば
まさ」というところにある
キャンプ場へキャンプに行
きました。

きょう年までは海水よくに
行っていました。今年
は、ほかのことにチャレンジ
しようと、お父さん、お母さ
ん、弟たちと二はく三日の
キャンプに行きました。

一番心に残っていること
は、一日目の夕食の時です。
夕食のメニューは、焼肉と
サラダ、それにジュース
(お父さんとお母さんはビー
ル)でした。



弟と右が智奈ちゃん

焼肉の準備をしている時
のことです。弟たちが「海

を見てみな」といったの
で見てみると、太陽がもう
すぐ海にしずむところであ
った。夕食の準備が終わるこ

ありました。僕は、
中学二年で野球部
に入っています。
こんな色々なこと
をする家族が僕は
とても好きです。
父や、母は、僕達
のために良く働い
てくれています。
一生懸命前向きに
働いてくれている
父や母、そして祖
父、祖母の姿を見
る時に僕はいつも
思います。健康に
だけは充分気を付
けてほしいと。



小六の時 右が鈴木君

ろにはもう半分以上しずん
でいて、水平線がもともと
と赤くなりました。
海にしずむ夕日を見なが
らの食事はさいこうでした。
キャンプのもう一つの思
い出は、とてもつかれたこ
とでした。

炊事の時や、水をくみに
行く時、トイレに行く時は
長い坂道を登っていかなけ
ればなりません。何
度も何度も登ったのでくた
たになりました。

でも、とても楽しかった
です。また来年もキャンプ
にチャレンジしたいと思
います。



グループ紹介

ダサラやつで会

下平高子

私達の町高森に、「内海流、輝久州会」の会が発足してから、早十二年程が過ぎようとしています。

発足当時、いろいろと悩んだグループ名も、やつでの様に手を広げ、皆と共に仲良くやっていくと、「やつで会」と名付けました。

会員の皆さんは、商店主、事業主、お勤めの方々と様々ですが、家事を段取り良くこなしながら、趣味の踊りを楽しんでおります。

又、八名の会員さん達は踊りが大好きで、仲良し、チームワークもバッチリといたところなんです。

踊りは、現代舞踊です。お稽古日は、毎月第一・第三の金曜日の二回です。

輝久州先生は、飯田から名取のお弟子さんと、二人でお見えになり、指導して下さいます。お稽古場所は、出砂原の地区館です。時間は午後七時半から二時間位ですが、先生も私達もこの時だけは真剣になってしまいい、時のたつのも忘れてしまいう事もたびたびです。

又、グループの向上を計る為、第二・第四金曜日自主的に練習を行っています。

やつで会と致しましては、下市田公民館活動の発表会、敬老会、コミュニティ、高森町民踊グループ発表会、又、今年は、山吹天伯峽のホタル祭

りにも初めて出演させて頂き、皆、発表の場が増えた事を大変喜んでおります。これからも、皆様の心に残る踊りをお見せする事ができます様、一生懸命練習させて頂きます。

輝久州会では、一年に一度、「ゆかたざらい」が、

行なわれます。今年は、八月二十八日曜日に、飯田文化会館にて開催致します。是非、皆様御都合を付けて、私達の舞台を見に御出かけ下さい。

私達の「やつで会」を、これからどうぞよろしく御願い致します。

下市田水墨画教室

宮嶋昭二

下市田水墨画教室の発足は、平成三年四月からです。当時、北の原の河田先生の奥さんが、飯田市伊賀良の大井教室へ水墨画を習いに通っていて、描いた絵(菊、竹、老梅花、ぼたんなど)を見せていただきました。

それから絵に魅せられて、以前からの仲良しグループの八人で、鈴木先生に高森まで来て教えて戴くようお願いした所、気軽に引き受けて戴き、毎月第一火曜日と第三火曜日の月二回、時間は午後一時半から約二時間、北の原会所をお借りして、水墨画の初歩から指導を受けています。

受講生は、唯自分で書いたものを、額装や掛軸にして眺める事を老後の楽しみ

に始めたのですが、水墨画は、墨一色で濃淡を使い分けることによって物の質感や遠近感はもとより、色彩まで表現するといふ大変難しい、又それだけに奥の深いものです。皆それぞれ練習を重ねていますが、仲々思うように描けないと悩んでいる所です。

現在グループ員は、発足当時より増加して十一名(男性二名、女性九名)です。

一年生が二人、二年生が二人、三年生が五人、四年生が二人で、平均年齢は六〇・五才位です。

今は、それぞれに手本を戴き、主として二年生以上は画仙紙一〇

号に、山水画を練習しています。

去年は、初めてグループ員の作品を、下市田公民館と町の文化祭に展示させて頂きありがとうございました。

今年は、墨推会の会員の作品展を、飯田の美博で十月展示する絵の仕上げに努めています。

最後に鈴木先生を紹介致します。先生は、画歴六〇年のベテランで、絵画教室「墨水会」を創立して、現在一五教室を持って、受講生一七〇名余を教えています。

飯田市北方在住
鈴木時夫 七〇才
雅号「玲仙」先生



編集後記

戦後最高の猛暑。今年は六月二十六日の三二・九度を封切りに、八月十九日までに真夏日が五十日、最高は三七・三度という飯田測候所の記録である。区民の皆さんも暑さに耐えて耐えぬいた夏だったと思います。

第二十九号の編集の十九日も、三三・五度の気温で夜になっても輻射熱で室内は不快指数になっています。この時期に原稿を寄せて頂いた方々に厚く御礼申し上げます。

行事として萩の里祭り、地元出身町議との懇談会、区スポーツ大会を、区の情報として、区の決算、公民館の決算、区及び各地区の情報、委員会活動を取りあげ、毎号紹介している内容は継続しました。

今回は下市田河原を考える会の方から、初回としての特別寄稿を頂きました。尚、萩の里祭りの第四部を、従来のカラオケ大会からエアロビクス大会に変更した内容も特筆されます。指導者は七名で、フリーダムネットワーク、フリーダム長野の皆さんでした。皆さんの投稿をお待ちしています。